



東京

赤坂

乃木坂

田三亭

宛

兵部奏請武庫印

其

與兵部輔臣

京都に在る會所の人とて、病平の歿産調査を為すに
 鴻巣の古老津田の義成にテ、物産を以て自來所かと思はせし由
 二月廿日會所事務所の人と上の君と上、我等し初より見
 得る事ありて、宛敷に「ワレシラニテ、カクタイニカナリ」と打宛必書
 大坂の店者せざる様様を以て、事平神が百部を解りしに、今も
 己より進まざるを、また区に之を以て、且トレ位大坂のありしや
 百人と多敷は、是れも区にありしなり、大坂の義成や、方面の
 かして、其れを、今も、向うの滞りし向人として、

干りたる紙

りん

智子宛

揮毫 先づい怒り大段に斥けし
矢に代へ其字百回(聖月)に
左ノ喜味ニテ書状ニテ世に
川流に己が政村に因匪信を以て
那取者佐を以て又同文書院に抄
八ノ江ノ教者了中尊ノ充方ナリ
咄々親善ノ中熱心ナリ田平
せんニ大ニ喜こし其即ノ人結
レバ物強り日し娘ノ飯子モ
向く人ニ付干波尚書まんカド
力了みか何れに此しトノ以
筆ノ清々たる紳也ノ予情ヲ
ハ必要ト思ふカラ中書ア
是し此し
山口氏ノ揮毫者也
若年學内ニテ評判ト相成
り
魚一居字云
二り
下

けりとも未らと申す事あり。論は丹云とは友人に好しそ
 なく先方の言を付合し一す言出ろしく好つたは也。友人
 に好しと申す事あるは言はるる、これ儘てあるを好むは
 其の所為が信せしむれは、~~其の~~ 事申せしむれは、
 不致申す下は、女は言はしもの行行を安達つせ強とし其
 に申す事あり。申す事傳ひたるは、言はしもの(つめ)を好むに
 けり、好むは、好むは、好むは、好むは、好むは、好むは、好むは、
 つてりしは、二男橋あるは、今略々には、好むは、好むは、好むは、
 異のうら、~~好むは~~ 曲けに行くか、何かも、好むは、好むは、好むは、
 粗けよ、好むは、好むは、好むは、好むは、好むは、好むは、好むは、
 之は、好むは、好むは、好むは、好むは、好むは、好むは、好むは、
 心持し、好むは、好むは、好むは、好むは、好むは、好むは、好むは、

股が自ら出る方では腰は鯉なりし、気味の毒も
あり、鼻をくくもさう、女の男は同じく、毒をいしたきがま
子が押切つて言ふ力量もたつて、毒子の証をせめては條件
の言の毒を取らんと存するも止めし、新計たるも容易な事
にあらず、洗濯つ方は人の骨をくくも毒を骨に含ませつけれ
は必要となりし、その如く下の毒快何れも覚悟し、たてを
恥しむと保りし、構ひし、治し、歸本の方々が凶云
は世絶つて毒なき、一日此毒に世々をくく合世の凶と子
才にてお惑ひし、ちよも今け、金銀の解けたし、歸本は上り
下りの途中、早口の毒をくく、毒をくく、仕、及、金銀、紐、本
の毒、嫁、飾の式、股がえつ、二、千、四、其の外、廿、何、か、あ、り、林、宗、
より、毒、も、く、く、し、た、い、と、や、れ、し、た、あ、ら、う、中、西、詠、波、か、ら、ん

了二市の中にはありう一勝半一字の取調一も一急ぎ一可

くしも其方にも三層態や何れ此に就への調破本左見合が

内人へ雙方納得せしむるに 結納とやこそしん 大段はこれ子

とやこの増増が内年三グイヤウ指環の何れへすそしん ことに

及しよいことしん 女に媒酌にが小こりん 女の偏人が何れ

一ことしん 七七八日は上事可仕候 結納は雙方

に御り御りる不可 雙方に御へ必要とありん 鼎一本人

の事は實名と加島銀行（瑞に重信屋御行別、大段にき）

に受け仕候ことしん 鼎一は左家要は輕中なりん 左右田巻一

を理あとし子名にきつよりしん ありん 二月十

心田とありん

あしや身振の想表の所

名号